

## 西条市におけるコミュニティ財団（仮称） 設立趣意書

### ○西条を盛り上げよう！チャレンジを応援しあえるまちへ！

私たちは、西条で暮らす人、西条に愛着をもつ多様な人々が、お互いに補い合いながらチャレンジできる、西条流の応援プラットフォームをつくっていきます。

寄附や投資など「まちをよくしたい」という願いを乗せた「志あるお金」を活用し、教育、福祉、環境保全などこれまでの経済性だけを追求する価値観では後回しにしがちだったところへ繋ぎ、新しい循環や価値を生みだし、地域経済に活気ももたらしていきます。

目指すのは、ここで暮らす誰もが未来にワクワクしながら、またお互いのワクワクを大切に考え、応援しあえるまち。

一人ひとりの力を最大限に発揮でき、チャレンジに前向きな文化が根付くことで、暮らしやすいまちへとつながっていくと考えます。

新たなチャレンジも、長年続けられてきたチャレンジも、どんなチャレンジも大切です。「チャレンジを応援しあえるまち」というビジョンに向かい、私たちは歩み続けます。

### ○まちづくりの課題とは？

私たちの取組みを明確にするために、まちづくりの現状の課題を以下 3 つのポイントに整理します。

#### 1. 制度や枠組みの狭間にある問題や、困りごとを抱える人たちがいる

多様化・複雑化していく現代の社会的な課題は、既存の制度や枠組みの中では、どうしても、その狭間で解決しづらいことが生じます。環境保全、子どもの居場所、難病に悩む方など、今ある仕組みや団体だけでの問題解決は難しい現状にあります。

#### 2. 活動を持続的にしていく・生みだしていく仕掛けがない

まちを良くしよう、まちの課題を解決しようとする活動が生まれていても、現状では、その活動を地域に定着させる仕組みが不十分ではないでしょうか。

活動には、人材、資金、情報などが必要ですが、それらを限られた人だけで負担し続けると、無理が生じ、活動したくても出来なくなってしまう。

活動の持続、また新しい活動を生み出すためにも、「活動している人・活動したい人」と、「それを周りで応援したい人」をつなぐ市内共通の仕組み・仕掛けが求められています。

### 3. まちを良くしようという活動が知られていない・情報が少ない

直接的に活動をしていない人にとって、どんな活動があるのか、どんな課題があるのかを知る機会が少なく、能動的に関わるためのきっかけ（タイミング、窓口、情報）が十分ではありません。潜在的に存在している課題や活動を、客観的に「見える化」したり、分かりやすく発信したりすることが求められています。

#### ○課題を乗り越えるために！みんなで社会構造を変えよう！

今すでに、この西条市でも、「困っている人を助けたい」、「地域をもっと良くしたい」と思い、それぞれの「気付き」から、主体的に活動している人たちがいます。

しかし、上記の構造的な課題から、活動は壁にぶつかり、頓挫してしまうこともあります。

もっと多くの人に「こんな課題、活動がある」と、まずは知ってもらい、このまちで起きていることを一人ひとりが「自分事」として考える人・発言する人・行動する人が増えていけば、このまちでの暮らしは、ここに住む一人ひとりに、もっとフィットしていくのではないのでしょうか。

さらに、問題を「個別のこと」と捉え「対症療法」的に取り組んでいては、いつまでも根本的な解決にはなりません。問題の背景には、社会全体の構造的な課題があります。点ではなく面で、さまざまな職種や専門を持つ方、そして市民をつなげ、多くの人を手を取り合っ

て取り組むことが大事だと考えています。問題の真因や構造をひとつずつ丁寧に解きほぐしながら、つながりを活かしてまちの課題の解決を目指します。

#### ○コミュニティ財団を通じて実現すること

日本にあるコミュニティ財団の数は、全国で29団体です（令和4年3月時点）。西条市でコミュニティ財団が立ち上がると、四国では初の設立となります。

##### ーオープンな場・スピーディーな支援

コミュニティ財団は、オープンでスピーディーな支援ができる団体です。

お預かりした寄附金は、皆さまの志のこもったお金です。

使用用途は常に公開し、寄附者の想いに寄り添っていきます。

寄附金を使って団体等の活動へ助成するときには、第三者的な判断が出来る外部審査委員の判断を仰ぎ公平性を担保する一方で、民間組織の特性を活かし、スピード感を持って助成していきます。

### ー地域の内・外への広がり～地域に密着したハブとして

既存の団体や行政、企業等と協力し、お互いの強みを活かします。

地域の中、外の人ともつながっていきながら、地域の皆さんと共に解決の道を模索する、「人、情報、資金などをつなぐハブ」となります。

地域でのつながりは、日常ではもちろんのこと、災害時には特に大切です。行政等とも協力しつつ、民間団体ならではのスピード感や柔軟性を発揮して、助けあいを実行します。

### ○誰一人取り残さない地域社会を目指して。「つながり」を大切に。

既存の制度や枠組みの狭間で取り残される人がいないよう、誰もが声をあげやすく、聴きあえる環境づくりを目指します。

コミュニティ財団という「まちの課題解決の仕組み」、「応援しあう仕組み」を今作っておくことで、現在のまちの課題解決だけでなく、次の時代を生きる人たちへ、暮らしをつないでいきましょう。

あなたの寄附、情報、提案を、どうか活かしてください。

“未来の社会への応援”を、今、手を取り合ってはじめてみましょう！

令和4年3月11日

西条市におけるコミュニティ財団設立準備委員会 有志

今井 博志

安形 真

星隈 英明

徳永 泰子

安形 梨紗

亀井 始実

庄野 由桂

安永佐和子